

頭の中を POS にする！（特別編）とはどんなワーク？

**すべての薬剤師に必ず学んでいただきたい
大変学習効果の高い演習です！**



この「頭の中を POS にする！」（特別編）は、岡村先生のご著書「薬局薬剤師の患者対応」（p78～83）、「患者対応技術の実践法」（p32）などに紹介されているワークで、**薬剤師の実力をつけるための総合演習として最適なワーク**です。このワークに 20 回から 30 回参加すれば、薬剤師として一流の思考力と患者対応力を身につけることができます。現在現役で活躍するすべての薬剤師の方にご参加いただきたい演習であると考えています。また、6 年制の薬学生実務実習の中で、各薬局においてこのような演習を実施し指導出来れば、素晴らしい実務実習となることでしょう。現在、服薬ケア研究会がこのワークの研修会を全国各地で開催しておりますが、用いる症例は毎回新たに作っておりますので、同じものは一つもありませんので、何度参加されても勉強になります。今回は前例会と同じ症例（同じ患者さん）で行いますが、「前回（前例会で指導した来局日）から次の来局日」を指導していただきますので、初参加の方はもちろん、前回参加された方も新鮮な気持ちで取り組むことができます。

ワークの内容は、模擬症例を用いて患者役の方と実際に対応をしながら、「どのように対応するのが良いのか」を学んでいきます。実際には 3～5 分程度で終わってしまう患者さんとのやり取りを、3 時間以上かけてじっくりとディスカッションしながら、組み立てていくのです。特にこの「特別編」では、岡村先生が直接チューターを務めてくださいますので、「服薬ケアステップ」（患者対応を効果的に進めていくための方法論）の実践応用例として、まさに実践しながら「どのように考えれば良いのか」を学ぶことができます。

このとき、5～10 名の**ワーク席の参加者**は対応する薬剤師役となり、チューターとやり取りしながら問題を探し、最適なケアを考察して行きます。ワーク席の参加者は、自ら意見を述べたり、チューターより発言を求められたりします。したがって、自分自身で実際に症例に取り組み、最適なケアを組み立てる思考訓練を行いたい場合には、ワーク席をご希望下さい。

オブザーバー席の参加者は、基本的にはワーク席の参加者がケアを組み立てていく様子を周りで見学する形になります。チューターから指名され、発言を求められることはありません。講師はチューターをやりながら適宜必要な解説をはさんでいきますので、患者さんとのやり取りや講師の解説を聞きながら、落ち着いて「どのように考えれば良いのか」を学ぶことができます。そのため、指されることにより緊張することなく、しっかりとその考え方を学ぶことができます。さらにオブザーバー席の方は、チューターより指されることはありませんが、自分で意見を述べたいときには挙手して意見を述べるすることができます。したがって、ワークの流れに自分の意志で参加することは可能ですので、ただ単に「見ているだけ」ではありません。そういう意味で、**ワーク席での参加よりも、オブザーバー席で参加した方がむしろ勉強になる方もいるでしょう。**

ワーク席の参加者は、ディスカッションに直接参加しながら、交代で実際の患者対応も行います。患者対応の組み立てだけでなく、コミュニケーション技法を用いて、患者さんとのやり取りをその場で行いますので、「服薬ケアステップ」の考え方と、「服薬ケアコミュニケーション」の実践練習を同時に行うことができます。

このように、ワーク席、オブザーバー席、どちらの参加でも、とても勉強になります。

患者役も参加者の中から、希望者（会員限定）にやっていただきます。実は患者役が一番勉強になると言われており、希望者も大変多いため、会員の中から事前に希望者を募っております。1 回以上この「頭の中を POS にするワーク」に参加したことがある会員の方は、患者役での参加も可能ですので、事前に事務局まで予約申込をください。

なお、参加される場合、必ず自分が使い慣れた薬や病気に関する参考書などを持参してください。このワークは考え方を学ぶワークですので、知識があやふやでは思考を組み立てることができません。特にワーク席参加の方は、忘れずにお持ち下さい。もちろん、オブザーバー席での参加の方もお手元で調べながら学んだ方が良いでしょう。（主催者側では特に添付文書などは用意しませんので、必ずご自身でご持参下さい。）